

無窮の空に

(大正九年寮歌)

戸田早苗君 作歌
藤田篤君 作曲

一

無窮むきゆうの空そらに黎明れいめいの
崇高けだかき姿すがた天翔あまかけり
新あたしき日ひは来きたれりと
万象ばんしやうの歓声こゑひびく哉かな

二

自由じゆうの陽光ひかりかぐはしき
美花はなさく学園そのつとに集つどふとき
青春せいしゆんの日ひにゆるされし
尊とうときたから失うしなはじ

三

強つよき響ひびきの底深そこひかく
みなぎる大地だいち踏みしめて
虚偽いつはりの世よを破やぶらんと
燃もえたちさかる我わが力ちから

四

生いくる喜悅よろこび讀たへつつ
深紅くれなゐの幻影かげくる狂くるひては
陽炎かげらうゆらぐ野のに出いでて
心こころのかぎり歌うたひ舞まふ

五

人ひとのいのちの際涯はてしなき
暗くらき疑惑まどひを我胸わがむねに
夕榆影ゆうべこかげに佇たたずめば
北斗ほくとは高たかく輝かがやけり

六

真理まことの宮殿みやの灯ともしび
憧憬あこがれ仰あおぐ友ともどちが
語かたらひつきぬ感激かんげきに
吹雪かぜ叫さけぶ夜よの更ふけゆくを

七

三年みとせの夢ゆめは淡あわくとも
長ながき旅路たびちのみちすがら
神秘くしびの森もりに迷まよひ入いる
尚たかき生命いのちと君知きみしるや